東京　明治十七年十二月九日　火曜日　第八百三十四號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官布告第二十八號

明治十三年(四月)第十五號布告府縣會規則第三十一條中三月ヲ十一月ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

明治十七年十二月八日　太政大臣公爵三條實美　内務卿伯爵山縣有朋

○太政官布告第二十九號

明治十三年(四月)第十六號布告地方税規則第四條一項左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月マデ九箇月ヲ以テ一周年度トス

其年四月ヨリ翌年三月迄ニ地方税ヲ以テ支辨スベキ經費ノ豫算幷地方税徴收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スベシ

右奉　勅旨布告候事

明治十七年十二月八日　太政大臣公爵三條實美　内務卿伯爵山縣有朋　大藏卿伯爵松方正義

○太政官達第九十九號

宮内省中陵掌陵丁墓掌墓丁及守丁ヲ廢シ更ニ守長守部ヲ置キ等級俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十七年十二月八日　太政大臣公爵三條實美

守長　相當等外一等ヨリ　年俸等外一等相當金百圓

守部　等級ナシ　等外二等マデ　金四十圓ヨリ　年俸金六十圓マデ

賞勳

○明治十七年十一月十三日

敍勳四等賜旭日小綬章　工兵少佐從六位勳五等　片岡弘正

仝　會計二等副監督從六位勳五等　篠原國清

時事新報

新社告　(地方購讀諸君へ申上候)

○時事新報御購讀被成下候に付ては新報代幷郵税共一切前金に御拂入被成下候樣兼て申上置候事ゝ有之且其前金相切れ候期日に當封表面御名前に脇ゝ(何月何日)と記入致し讀者諸君御記憶の便に供し本社に於ては同日限遲延見合候事ゝ取極た過般來實行致居候ゝ付ては猶御注意の爲め左ゝ緊要の件々申上候

○地方購讀諸君の中當府下にて御親族御朋友又は商業取引上御得意先ゝ有之時事新報代價等も其方にて受取方相辨し候樣兼て懇願被成置其旨御通知被下候へゝ本社よりと同方ゝ受取人差出候樣可仕是亦双方便利の一法と相考申候但受取先ゝ度々相變り候樣ゝては却て不便利ゝ付確と御取極めの程奉願候

○郵便爲換又は銀行爲換等を以て時事新報代價御拂入れ被成下候節當方の宛名に(時事新報社)と致し郵便爲換なれば(東京隼遲本局)にて受取るべき樣御取組被成下度候

○御住所の御都合等にて郵便爲換又は銀行爲換等御取組被成候樣御不便の御方に限り時事新報代價幷に郵便税共一錢又は二錢の郵便切手にて御拂入れ被成下候て苦しゝゝず候

○通運會社便にて現金御送付被下候御方間々有之候處右の樣る時日遲延し御仕出日の翌日ゝ翌日ゝ有之候ども本社到着の日迄ゝ早や時事新報遲送の日現相切れ候樣の事毎々有之取扱上甚困難仕候間右に可成御廢止被下度尤萬々不得已場合御引換被下度ゝ有之候得共其節日請凡四十日ゝ見込み御豫立被成下候樣願候

○本年十二月ニ規則改正後初めての年度末ゝ當り此際當來の會計候樣上清算確定致し來年一月以後の豫約も本月内に御取極め候に付爲約期間諸君の中前金來年に跨り居ゝる分ゝ本月中本社に相達候樣の日積と以て御送金被成下度奉願候

海軍擴張(昨日ノ續)

豊浦生

我國人民ガ海軍備ノ手薄ナルヲ憂キ急ニ海軍擴張ノ方法取調ヲ始メタルガ今後該員ガ御一番手ニ入ル事ニ成リ本官ハ其事ノ成ル日ヲ待チ長力ヲ盡シ

火ニ用ルノ金ナリトノ事ハ既ニ前段ニ記載シタリ扨此水雷ハ尋常ノ氷雷火コアラズシテ所謂白頭(ホワイトヘッド)ノ水雷火ナルモノナリ尋常ノ氷雷ハ平時港ヲ海底ニ沈メ置キ敵艦ガ其上ヲ經過スルニ當リ電氣ヲ通ジテ發藥ヲ發シ艦底ヨリ是ヲ撃ツ

上グルノ仕掛ナリ首尾ヨク敵艦ガ其上ヲ通過スレバ誠ニ僥倖ナレドモ若シモ航路ヲ變ジテ水雷ノ上ヲ通過セザル時ハ折角ノ骨折モ無駄トナリ響應ノ用意出來ラズ酒ハ腐ルかすてらハ黴ルト一般ノ憾アルベシ又此所ニハ水雷ノ仕掛ガアルベシト思フ時ハ線ヲ斥候船ヲ出シテ海底ヲ探リ魚ヲ釣リ上グルガ如ク一々是ヲ拾フノ器械モアリ又此尋常ノ水雷ハ餘リ永ク海底ニ沈メ置ク時ハ海水自然ニ染ミ込ミテ遂ニハ物ノ用ヲナサズ又海潮ノ急ナル所ニテハ廿四時間ゴトニ是レヲ入レ代ヘザルベカラズト云フ其入費モ必ズ莫大ノ高ナルベシ反之彼ノ白頭水雷ハ蒸氣又空氣ノ壓力ヲ以テ是ヲ敵艦ニ向テ撃ヲ掛クル工夫ナリ併シ敵艦ニ向テ是ヲ撃ヲ掛クルト云フト雖ニ鉄砲ヲ撃ツガ如ク是ヲ放ツニハアラズ最初若干ノ速力ヲ以テ是ヲ水中ニ撃ヲ込メバ恰モ魚ノ泳グガ如ク水中ヲ潜リテ直線ニ敵艦ノ脇腹ヲ突キ其衝突ノ瞬時ニ破裂スル仕掛ナレバ或ハ是レヲ名ヅケテ魚水雷トモ云フナリ故ニ歐羅巴ニテハ最早尋常ノ水雷ヲ用フル者ナク皆此ノ魚水雷ヲ用フト云フ勿論年々歳々新奇ニ新奇ヲ加フル世ノ中ナレバ魚水雷ニモ種々樣々ノ種類アルベク又其細カナル仕掛ノ如キハ小生ノ曾テ知ラザル所ナレバ是ヲ報道スルニ由ナシト雖ニ尋常水雷ト魚水雷トノ異ナル所ハ大低前陳甚タ拙ナシトセズ廿四五噸ノ大砲數門ヲ裝載セントスルニハ先ツ其船体ヲ巨大ニセザルベカラズ然ルニ古來戰爭ノ實驗ニ於テ船体ノ巨大ニ過グルハ敵ニ利アリテ我ニ損アリ可成船体ヲ縮小シテ且ツ是ヲ堅固ニスルコソ我ニ利アレ近頃ノ如ク互ニ大砲ノ大ナルヲ競ヒ彼レニ八十噸ヲ製スレバ我レハ百噸ヲ造リ年々歳々大又大隨テ又此大砲ヲ裝載スル堪ユルタメ愈益船体ヲ巨大ニシテ其新造ニ多分ノ費財ヲ費サヾルヲ得ズ然ルニ魚水雷ヲ放ツニハ餘リ込ミ入リダル仕掛ヲ要セズ大砲ノ如キ重量ノ器械ヲ裝載スルニモ及ハズ隨テ船体ノ巨大ナルヲ要セザルガ故ニ是ヲ運轉スルニハ輕便ニシテ是ヲ新造スルニハ巨額ノ入費ヲ要セズ然カモ其敵艦ヲ破ルノ力ハ却テ大砲ヨリモ強ク如何ニモ一撃圖得ノモノト云フベシ但シ水雷一發ノ價ハ二千圓ヨリ二千五百圓マデニシテ尋常大砲ノ一發ニヨリモ多分ノ入費ヲ要スルガ如ケレドモ船体ノ大小ト是ニ伴フ入費ノ多少トヲ比較スル時ハ其利却テ水雷ノ方ニアルモノヽ如シ斯ル理由ナルガ故ニ英國ニテハ急ニ魚水雷ヲ製造シテ海軍ノ兵制ヲ一變スルノ暇ナリ前ニモ云ヘル如ク自由黨在朝ノ間ハ何トナク既備ヲ怠ルノ情狀ナキニアラズ(ペーパースレッド)ル英國ノ海軍恰モ全國ノ生死ニ關スル一大龜豚ナレバ古來曾テ海軍備ヲ以テ國體問題トナセリ(ナシ)自由主義ノ人モ守成主義ノ人モ貴モ賤モ富モ貧モ其海軍ヲ擴張スルノ一段ニ至テハ聊カカヾトモ異論ヲ唱フル者ナク實ニ全國同胞ノ義ナレバ此度ノ改革ニ就テ尋ネ問ヒ合ハセ等ナラズ詢ニ英人ハ海國ノ民ナリ實ニ然ルカナ

カラズ敵國ト戰フニモ海ヲ渡ラザルベカラズ實ニ我日本國民ハ海ヲ以テ生命ト爲ス者ナリ然ルニ顧ミテ其海軍備ヲ見ルニ僅カニ何十艘ノ新古大小ノ軍艦ト極メテ少數ノ水雷船トヲ備フルニ過ギズ一旦外國ト事アルノ日ニ際セバ何ヲ以テ敵軍ノ衝ニ當ラントスルカ伊勢ノ神風ハ北條ノ世ニ至リテ元師十萬ヲ西海ノ波ニ吹キ沈メタリト聞キシレド明治十七年代文明國ノ鎮艦隊ハ果シテ伊勢ノ逆風ニ辟易シ柁ヲ轉シテ西ノ海ニ逃ケ去ルベキヤ如何甚タ不安心ナリ好シ僥倖ニシテ敵ノ襲來ナントスルモ永世太平洋上ノ一獨立國タル榮譽ト幸福トヲ享ケントスルニハ時ノ都合ニ依リテ抗々ハ此方ヨリ敵國ニ出掛ケテ進取ノ手段ヲ施サヾルベカラズ先ヅ上陸ノ上ハ陸軍モ入用ナラント雖ド此陸軍ヲ先方ニ送リ屆クルニハ先ツ第一ニ海軍ノ完全ナルモノナカルベカラズ海軍ノ用意尚甚タ手薄ナルニ卒然陸軍ヲ運送スル樣ノ事アリテハ敵ニ海上ニ要撃セラルヽ是ヲ防クノ道ナク何樣ノ變事出來スベキヤモ知ルベカラズ故ニ今日本國ノ獨立ヲ維持シ其榮譽幸福ヲ全ウセントノ願望アル者ハ專ラ海軍擴張ニ其心ヲ用ヒン日本國人タルノ責任ナルベシ　(完)

雜報

○行幸の續　(第三報)一昨七日聖上には茨城縣下北相馬郡取手驛に御小休所を御設營在らせ給ひて更に藤代驛の飯田周作方へ御休憩遊はされしは午前九時三十分ありき爰所にても間も無く御發輦ゆり夫より若芝村を經て牛久沼の沿岸に設けたる新道を御通輦の節は暫く御輦を駐めさせ給ひて親しく同沼の模樣を天覽遊はされ牛久驛なる飯島治左衛門方の行在所へ御着輦在らせられしは正午時を過ること十五分ありしが同時ゝ烟火數本を打揚ゲ又行在所の御門前には樂て東京より出張なし居たる樂隊一小隊の奏樂ありたり恰當日沿道の景況を畧記せんに取手驛より以東牛久驛迄の諸村落は道に兩側に繩を張りて紅燈を掲げしは宛ながら祭禮に異ならざりし道傍の小學校生徒の歌員ゲ之を奉る極旗を掲げて御輦を送迎し奉り又牛久沼新道の入口と牛久驛の兩端には西洋風に飾りを作りて紅燈を掲げたり尤も同驛は戶數僅かに百六十戶に過ぎざるを以て供奉員の宿割にも差支ゆる程なりしが縣官部吏の盡力あて新聞社員の宿割迄出來居たり供奉の船越千葉縣令(船號に利根川遊覽遊と記せしが同所よりも更に供奉を命せられたり)人見茨城縣令は行在所へ召され御陪食を仰付られより情明日天覽在らせらるべき女化ヶ原近衛大砲の射的場は行在所を距ること三十二丁に過ぎざる程の所にあり御着輦後より打試しを始め近衛參謀岡澤大佐以下近衛士官其他參謀、監軍兩本部は將校數十名何れも出張あしより同日人見茨城縣令より供奉の勅奏判任官へ折詰の肴を分配し北條馬の郡長より利根川筋あて漁獲せし鮭十二尾と大鯉(三尺)一尾を生しるる程水に浮べて行在所に供へしかば聖上には殊の外御滿足ゆ思召されたる由に漏れ聞り又供奉代弟田、山口の兩僧從は仰ゴよりて臨天より讀書相進へ給ふ爲十三羽已鴨十八羽を就藏して天覽に供へし後供御となされし餘は勅奏代供奉官へ賜はりゴ及びして代日迄勅村の金藏寺外寺院荒人民より天覽に供へ奉りし數十羽の雲雀中にて其一二を撃かんに大塚宮九書一番、高屋小路勅旅館の眞鶴、同短刀其他獲物、藏藏寺の眞鶴

二幅(板倉侯)十六羅漢十六幅(溝口侯)

○行啓　皇后宮ハ十日ノ夕方大蔵卿ノ御覽ノ爲メ行啓遊ゾ覽あらせられ度にて砂糖ノ製造ノ業務ヲ解ノ方大蔵卿ノ

○伊藤宮内卿ハ仕せる奥伺ノ為メ府下ノ藏

○井上外務卿ハ山口縣下山

○大山陸軍卿ハ期ノ時日ヲ事なりしが出發して

○除服　佐引なし居た遣省に因り知の先塋に

○造船所竣工禮同少將ノ須賀へ赴ク

○品川農商務卿ハ縣下巡回仰ゲ

○渡邊工部少輔ハ山及滋賀ニ神戸に赴き

○出張　中六日間ヶ原

○日本鎮遠會同社長ハ同社を得て就任

○故米國大統領ヒールド氏の去る五日出

築尚志氏ハ

○出張　中

議官ハ宮城

去る六日出

同側には米國

に浮き彼り

ダ又右像の

スボルロー

ヤ内閣

○ビスマルク士スキャンソ